

ご挨拶

新春を寿ぎ、謹んで年頭のご挨拶を申し上げます。
日頃より市民の皆様にはご支援を賜り感謝申し上げます。
2016、首都圏「住みたい街」に津田沼が10位とランキング付けされ習志野市の人口は、17万人を超えたことは大変喜ばしい出来事でした。
今後は、この位置づけを維持するためにも習志野市に「住み続けたい」と言ってもらえるような健全なまちづくりを行っていかねばなりません。
課題はたくさんありますが、一つ一つ丁寧に確実に実現して参りますので引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。



<第4回定例会 鮎川由美の一般質問から>



教育問題について 「学校施設再生計画について」

児童・生徒の急増期に設置された学校施設は、老朽化が進み、習志野市の未来を担う子どもたちに、安心・安全を確保する上で、教育環境を整えることは、最優先に取り組むべき課題であります。

公共施設再生計画では、老朽化した公共施設について、「機能をできる限り維持し施設の総量を減らす」量から質へ考え方を転換し、このことで持続可能なまちづくりを目指し、時代の変化に対応した公共サービスを維持していこうとしておりますが、学校施設は市の保有する公共施設において最大の床面積となっており、改善するには財政面でもかなり厳しい状況です。

また、県内でも人口密度が高い市でありながら、子育て世代の地域格差による人口の分散が見られます。この学校施設に対して、現在の「学校施設再生計画」はいずれ見直しが必要となってきますが、現時点での学校規模による違いがあるのかを尋ねました。

●「学校施設再生計画」は？

第1期計画期間（平成26年～平成31年度）学校の耐震化を最優先➡完了、学校トイレの改修➡約5割完了

第2期計画期間（平成32年～平成37年度）平成31年度に学校施設再生計画を策定

※今後予想される児童・生徒数や学校が果たす地域的役割を踏まえ、将来を見通した教育環境の整備・充実に取り組んでいく。

第3期計画期間（平成38年～平成43年度）未定



改修され、きれいになった学校トイレについての子どもたちの反応

「トイレは臭くない」「きれいになった」「大事に使う」「とてもうれしい」➡トイレに行くことへの抵抗感やトイレを我慢することが少なくなった。清掃を今まで以上に取組んでいる。ものを大切にする等の変化の報告。

<要望>特に学校トイレの改修（和式トイレから洋式トイレへの改修）は子どもたちにとって緊急の課題であると共に、災害時には地域にとっても重要な施設となることから、早急な取組と改善を要望しました。

●児童・生徒の登下校中の安全確保の取組は？

各学校で交通安全指導、地域ボランティア等による登下校の見守り、通学路の安全点検、危険個所の改善、路面標示、横断歩道の引き直しに努めている。

●学校規模がもたらす教育活動の影響は？

学校規模に応じた魅力ある学校づくりに取り組んでいる。

小規模校・・・異年齢の集団活動、一人ひとりの子どもにきめ細やかな指導。

大規模校・・・大勢の中で切磋琢磨し、活気にあふれる教育を指導。

●学校規模がいじめにもたらす影響と教育委員会としての取組は？

学級数と認知件数には、相関関係は認められない。いじめの早期発見と未然防止。

アンケート実施による実態把握や個別の面接により、早期解消・適切な対応を実施。

●学校規模による学力の差は？

平成 28 年度の全国学力・学習状況調査結果・・・国語と算数・数学の正解率と学級数との関係に大きな開きは見られない。小学校、中学校共に特に相関関係は認められない。

●子どもたちが減少傾向にある国道 14 号以南の学校、今後の推移見込みは？

現在の 0 歳時が小学 1 年生になる平成 34 年度▶秋津・香澄小の学級数は 10 学級を下回る予測。袖ヶ浦地区は 2 つの学校全体で 10 学級の横ばい傾向。

●公立小中学校の適正規模・適正配置の基準や考え方、小規模校を今後どうしていくか？

学校規模という数的な事のみにとらわれることなく、本市が目指す教育のあり方、地域コミュニティにおける学校の役割、地域の要望等を踏まえることが大切と受け止めている。どの学校も特色ある教育活動を展開し地域のシンボルともなっている。現状を維持しながら教育活動を支援、全市的に児童・生徒数の動向に注視する。



千葉工大生と清掃活動



地域問題 秋津地区公共交通空白地域への対応について

解消策の一環としてバス事業者からは、乗務員の増員やバスの増車に伴う措置はコスト高になることから、既存バス網の見直しや再編、回送バスを利用した路線の延長などの対応が現実的であるとの見解が示された。

現在、J.R 津田沼駅から谷津干潟まで運行している系統の回送便を利用する提案がバス事業者から示され谷津干潟から新習志野駅方面に営業区間を延伸するルートの実験走行を去る 11 月 16 日に実施、道路状況などの検証を行った。すれ違い時の対向車との間隔や、停止線の位置等の路面表示、さらには一部区間の道路形状について課題があることも実車により確認できた。(参加者：地域代表メンバー 19 名、京成バス社員 8 名、市職員 7 名)

●試験走行した際の課題は？

- ①千鳥橋付近の T 字路交差点の停止線位置・・・現状のままでは大型バスが右左折の際に走行が困難。
- ②津田沼高校と谷津干潟の間を走行する際・・・一部に S 状区間、すれ違いの車両との十分な感覚が取れない。
- ③津田沼高校南西の直角のカーブ・・・すれ違いの車両との十分な感覚が取れない。
- ④交差点の停止線位置・・・現状、まろにえ通りから津田沼高校南側道路への左折が困難。

●課題の捉え方は？

今後の高齢化の一層の進行を考え、市民の移動の確保策を更に充実させることは、重要な行政課題である。

試験走行の結果確認できた停止線の位置等の路面表示や一部区間の道路形状等の課題については部内での検討やバス事業者との意見交換を引き続き行う。

実際の運行に際しては、沿道にお住まいの方々との合意形成も必要で、今回の試験走行の取り組みを秋津地区における路線バス網の充実に向けた第一歩と捉え、地元の意向も確認しながら慎重に対応して行く。



谷津干潟側沿い津田沼高校南西側の道路について

これまで、道路幅に余裕が無いことで自転車走行の安全確保が出来ないと長年地域要望を出し続けております。そこで、県会議員を通し道路の土地確保状況を確認頂きました。現在、市有地との代替を視野に市当局との検討をお願いしております。今後、皆様にご協力頂くことが出てきた際には、よろしくお願い致します。

皆様からのご意見・ご要望は、FAX 047-452-0781 に お願い致します。